原稿作成方法について

土木学会地震工学委員会　橋梁の対津波設計に関する小委員会

１．データ書式

　原稿は，Adobe Acrobatを用いて変換された，PDFファイルで提出して頂きます．ファイルサイズは1MB以内とし，印刷した場合のページ数がA4版・偶数ページとなるよう原稿を作成して下さい．これを超えた原稿は受け付けられません．また，投稿するファイルはPDF形式とし，圧縮ツールは使用しないで下さい．なお，Adobe Acrobat Reader（アドビシステムズのホームページよりダウンロードできます）を用いて，作成したPDFファイルの原稿が執筆者の意図したとおりに印刷されることを確認して下さい．なお，DVD編集の障害となりますので，PDFファイルにパスワードの設定は行わないで下さい．

　PDF化にあたっての解像度の設定は制約を設けません．上記のファイルサイズ以内に納まる限り，執筆者の自由とします．ただ，印刷した場合を考慮すると，テキストおよび白黒ビットマップ画像の解像度は1200dpi程度，カラーおよびグレースケールのビットマップ画像（写真等）の解像度は300dpi程度が目安になります．Adobe Acrobat Distillerを利用する場合，下記の方法が推奨されます．

(1) 印刷から【PDFプリンター】を選択．

(2)【プロパティ】を選択．

(3)【レイアウト】タブページから【詳細設定】を選択．

(4)【グラフィックス】中の【印刷品質】を【1200dpi】に変更．

(5)【グラフィックス】中の【True Typeフォント】を 【ソフトフォントとしてダウンロード】に変更．

(6)【PostScriptオプション】中の【PostScript出力オプション】を 【エラーが軽減するよう最適化】に変更．

(7)【PostScriptオプション】中の【TrueTypeフォントダウンロードオプション】を 【アウトライン】に変更．

(8)【OK】ボタンを押して，PDF変換する．

Microsoft Wordを使う場合，「ファイル」→「オプション」→「詳細設定」→「ファイル内のイメージを圧縮しない」をチェックして下さい．

２．用紙設定と書式

　A4版・縦（210×297mm）とし，上下余白各18mm，左右余白各15mmを必ず確保して下さい．

　横書き，48文字／行，42行／ページ程度を標準とします（２段組でもよい）．本文の文字の大きさは10または10.5ポイント程度とし，フォントは英数字はTime（Times New Roman）／Helvetica／Symbol等を，日本語は明朝，ゴシック等を使用して下さい．日本語フォントにおけるギリシャ文字（σδε等）の使用は可能ですが，機種／フォントに依存する特殊文字（①②など），半角カナおよびHG系のフォントは文字化けの原因となりますので使用しないで下さい．上記は，異種プラットフォームにおけるファイルの互換性を確保するために必要です．

　文字色は黒とします．シンポジウム終了後に発行する論文集はPDFで発行しますので図・表・写真等については色の制約はありませんが，白黒プリンタに出力した際に問題が生じないよう配慮して下さい．概要集は白黒印刷します．図・表・写真等は原稿に張付けた状態でPDF化することとし，別ファイルにしないで下さい．なお，最終論文集原稿においては，原稿の中に関連するホームページへのリンクを作成しても結構です．

　このファイルが，当該書式に従った文書になっています．また，最終ページに，原稿サンプルを付けてありますので参考にして下さい．

３．書き出し

　原稿の1ページ目には，課題名・勤務先・氏名・本文の順に書いて下さい．

　課題名は第1行の中央に配置してください.次に1行あけて，勤務先・講演者名（連名の場合は登壇者（前に○印を記入），連名者の順）を右側に寄せて書き，次の行から本文を書き出して下さい．

４．原稿の取扱いと出版使用許諾のお願い

　原稿ファイルは電子申込み時に同時に送信することになります．ただし，何らかのトラブルで印刷原稿を再送していただく必要が生じる可能性がありますので，原稿ファイルは削除しないで保存しておいて下さい．なお，登載された原稿は返却いたしません．

　投稿いただいた原稿につきましては，投稿された段階で土木学会が刊行する論文集での出版使用を許諾していただいたものとさせていただきます．

4.1 出版について

(1) 「橋梁の対津波設計に関するシンポジウム論文集」（冊子体及び電子媒体を含む．以下「論文集」という．）の出版を認める．

(2) 論文集の出版と頒布する権利は土木学会に委任する．

4.2 公開について

(1) 当該論文・報告の全部または一部を，土木学会ホームページをはじめとする土木学会が認めたネットワーク媒体や書物において任意の言語で公開することを認める．

(2) 上記(1)の場合，土木学会地震工学委員会橋梁の対津波設計に関する研究小委員会が必要に応じて当該論文・報告の抄録等を作成して付すことを認める．

4.3 その他

この許諾書に記載されていない事項は，許諾者及び土木学会が協議し決定する．

５．原稿提出締め切り・提出先

5.1 発表予定の申請について

　締め切り：2016年6月17日（金）

　宛先：幹事長・竹田周平　s-takeda[at]fukui-ut.ac.jp

　(1) 発表者名，(2) 発表者所属，(3) 連絡先メールアドレス，をメールでお送りください．

5.2 概要集について

　締め切り：2016年7月18日（金）

　宛先：幹事長・竹田周平　s-takeda[at]fukui-ut.ac.jp

　最大2ページです．シンポジウム当日，白黒印刷した概要集を参加者に配布します．原稿はカラーでも構いませんが，白黒印刷でも結果がわかるようご配慮願います．手法，条件，結果について述べて下さい．もし解析結果が間に合わない場合も，5.3に説明する最終論文に含めていただければ結構ですので，その場合は手法や条件などをまとめて下さい．

5.3 最終論文集について

　締め切り：2016年8月31日（水）

　宛先：幹事長・竹田周平　s-takeda[at]fukui-ut.ac.jp

　概要集から変更がない場合は，再提出不要です．概要集から変更したい場合は，8月末までに最終論文原稿を提出してください．最終論文集はPDFファイルとして発行しますので，ページ数は2ページを超えても構いません．

６．時刻歴解析の場合の解析結果について

　参加いただいた方全員の結果を比較して掲示したいと考えております．ご賛同いただける方は，下記のフォーマットでテキストデータをご提出ください．

出力時間間隔：0.01秒

ファイル形式：時間，抗力，揚力が1行ごとに収録されたCSV（カンマ区切り）テキストファイル

単位：時間は秒，抗力と揚力はN

例）

Time,Drag (N),Lift (N)

0 , 0 , 0

0.01 , 0.123 , 0.456

0.02 , 0.321 , 0.654

　締め切り：2016年7月29日（金）

提出先：小委員会委員長　伊津野和行　izuno[at]se.ritsumei.ac.jp

７．採否

　採否は小委員会にご一任下さい．

８．問合せ先

　福井工業大学工学部建築土木工学科　竹田周平　s-takeda[at]fukui-ut.ac.jp

課題番号．課題名

土木大学　工学部　○土木　太郎

土木大学　工学部　　土木　次郎

１．手法

　外力を推定するのに用いた手法を簡単に説明してください．

２．条件

　解析にあたって仮定した条件や，解析領域，用いた式などについて説明してください．

３．結果

　推定した抗力と揚力について述べて下さい．実験結果が公開されているものに対しては，実験結果と比較した図を示して下さい．

参考文献

1) 本間仁，安芸皓一：物部水理学，pp.430-463，岩波書店，1962.

2) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説IV下部構造編，pp.110-119，1996.

3) Shepard, F. P. and Inman, D. L. : Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans*. *AGU*., Vol.31, No.2, 1950.

4) C. R. ワイリー（富久泰明訳）：工学数学（上），pp.123-140，ブレイン図書，1973.

5) Smith, W. : Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.